

神奈川・永福寺跡

1 所在地 神奈川県鎌倉市二階堂

2 調査期間 一九九〇年(平二)八月～十二月、二一九九三年七月～十二月、三一九九六年七月～一九九七年一月

3 発掘機関 鎌倉市教育委員会

4 調査担当者 福田 誠

5 遺跡の種類 寺院跡

6 遺跡の年代 一二世紀末～一四世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

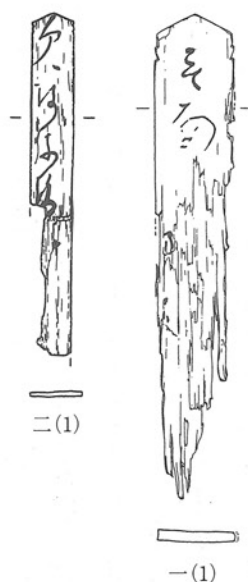


(横須賀)

本遺跡地はJR鎌倉駅の北東約2kmのところに位置する。「二階堂」や「三堂」などの地名も残り、古くから永福寺跡と考えられていた。永福寺は『吾妻鏡』文治五年(一一八九)二月九日条を初見とし、同年九月源頼朝による奥州



永福寺跡調査位置図



三 一九九六年度調査

(1) 南無

(梵字)

大之

身證去

□□□□□□

600×50×9 061

頂部を五輪塔状に削り出した大型の卒塔婆で、下端部は剣先状に尖らせている。表裏両面に墨書の痕跡が認められ、いくつかの文字



は読めるが、全体の内容までは判読できない。下端から約一四cmのところは釘孔が確認でき、何かに打ち付けて使用されたことが窺える。この形状の塔婆は本遺跡から他に二点出土しており(本誌第二六号)、また鶴岡八幡宮境内の調査においても、墨書はないものの一mを越える五輪塔を模った木製品が出土している(鶴岡八幡宮境内発掘調査団『鶴岡八幡宮境内発掘調査報告書(鎌倉国宝館収蔵庫建設に伴う緊急調査)』、一九八五年)。中世における一般的な供養形態の一つであったと考えられよう。

9 関係文献

- 鎌倉市教育委員会『永福寺跡』(一九九二年)
- 同『永福寺跡』(一九九五年)
- 同『永福寺跡』(一九九八年)
- 同『永福寺跡—遺構編』(二〇〇一年)
- 同『永福寺跡—遺物・考察編』(二〇〇二年)

(鈴木絵美)